

上半期株主通信

平成21年4月1日 ~ 平成21年9月30日

第

71

期



株式会社 東洋製作所

証券コード 6443

トップメッセージ



株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃より当社グループ事業へのご理解とともに厚いご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

ここに第71期上半期（平成21年4月1日～平成21年9月30日）における事業の取り組みおよび成果につき、ご報告をお届けいたします。ご一読いただければ幸いに存じます。

平成21年12月

代表取締役社長

服部 豊

Q 上半期の営業状況と業績は
いかがでしたか？

A 中期経営計画の初年度として業績向上策を
推進中ですが、事業環境の厳しさから計画
値を下回っています。

昨年秋以降の世界的な景気後退による影響は、一部に持ち直しの兆しが見られ、最悪期を脱したとも言われていますが、製造業における設備投資の抑制や雇用の悪化、個人消費の低迷など、依然として本格回復への見通しは立っていない状況にあります。

当社においても、この上半期は予想以上の荒波に揉まれ、受注・売上・利益ともに当初の計画を下回る厳しい結果を余儀なくされました。前期末における受注残が少なかったことに加えて、その売上計上が下半期にずれ込む案件も発生し、エンジニアリング事業、機器事業はともに受注・売上の上半期目標をクリアすることができませんでした。

当期は「74期中期経営計画」4カ年の初年度であり、計画方針に沿って、「環境保全」「省エネ」をキーワードとした新製品開発、一層のコストダウン、そして業務の標準化・効率化を全社的に推進しています。上半期の取り組みにおいても、差別化技術確立に向けた委員会や個別戦略販売チームの立ち上げ、生産稼働日調整などの実施により、業績の向上に努めてまいりました。

しかしながら、先に申し上げた通り、事業環境の厳しさによる営業面のダメージを十分にカバーするには至らず、当上半期の連結業績は、売上高6,806百万円（前年同期比22.9%減）、営業損失690百万円（前年同期は61百万円の損失）、経常損失707百万円（同55百万円の損失）となりました。

Q 下半期の課題と通期見通しをお聞かせください。

A 全く予断を許さない状況の中、上半期の遅れを挽回すべく、全社的な対応策を進めてまいります。

当社事業にかかわる各製造業の状況については、設備投資意欲が景気後退以前のレベルに戻るまで、かなりの時間を要するものと思われます。そうした中で当社は今後、さらなるコストダウンに努めつつ、省エネ・環境関連など技術的優位性を発揮できる分野に経営資源を集中することによって、業績の回復を果たし、持続的な成長性を確保していく考えです。

この下半期は、現在のところ足元の受注が堅調に推移しております。また、上半期における遅れを挽回すべく、とりわけ「スピーディーな情報キャッチと的確な行動」「生産性の向上」「ムダの排除とコストダウンの加速」の3項目に力点を置いた取り組みを、全社一丸となって進めてまいります。

通期の連結業績については、売上高22,000百万円（前年同期比8.9%減）、営業利益480百万円（同41.9%減）、経常利益350百万円（同54.1%減）、当期純利益200百万円（同47.4%減）と期初計画を達成できる見込みです。



Q 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A 事業成長とともに、産業界および生活環境に必要な企業として、より大きな社会的貢献を果たします。

当社では、株主の皆様に対する利益還元について、安定的な配当の継続を基本に、財務体質の強化に向けた内部留保の充実も勘案した上で、成果の配分を行うことを方針としています。今回の第2四半期配当は、引き続き実施を見送らせていただきましたが、期末配当については、上記方針に基づいて前期水準を維持し、1株当たり5円を計画しています。

当社は「74期中期経営計画」の遂行により、特に省エネ・環境関連分野で他社を凌駕する商品、システム、サービスの提供を強化していく考えです。また同時に「熱総合エンジニアリング」として、企画から施工、製品販売、サービスに至るまでの一貫体制の確立を目指しています。これらを実現するために、当社は引き続き「良いものを安く早くお客様に提供する」を基本方針として、製品開発におけるコストダウン施策をはじめとする構造改革に鋭意取り組んでまいります。そして、ここに述べたビジョンを通じて自らの事業を成長させながら、産業界および生活環境に必要な企業として、より大きな社会的貢献を果たしていく所存です。

株主の皆様におかれましては、今後とも当社事業の発展にご期待いただき、長期的なご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

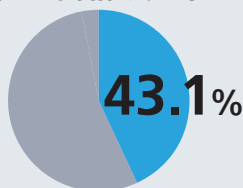
部門別事業の概況

エンジニアリング事業部門

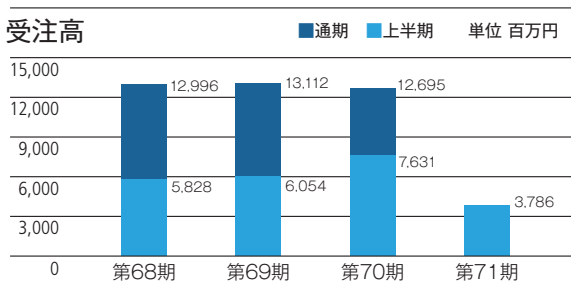
エンジニアリング事業では、食品製造および流通、化学、機械などの業界をターゲットに、冷熱・環境エンジニアリング（低温物流、食品加工、環境試験、製造工場プロセスなど）の設計から製作、施工、保守サービスまでを提供。とりわけ、脱フロン化の推進など環境保全・省エネ関連の技術力を活かした製品開発を通じて、広く社会に貢献し、高い評価をいただいています。

売上高構成比率

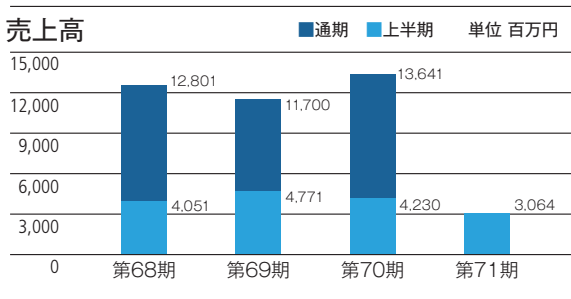
売上高
3,064百万円



受注高



売上高



上半期の 事業概況

当事業は、低温物流、食品加工、飲料冷却、環境試験、製造工場プロセス、特殊空調等の冷熱・環境エンジニアリングのシステム設計、製作、施工ならびに保守サービスを主たる

業務とし、省エネ、環境保全を通じて社会に貢献し高い評価をいただいております。

当上半期における主な納入実績としては、食品加工工場向け冷却設備および凍結設備、工場空調用空調機更新工事、薬品保管用冷蔵庫、自動車用環境試験装置更新工事、食品会社向け冷蔵庫設備などが挙げられます。

受注面では学校給食原材料保管用設備としてCO₂ / NH₃自然冷媒システム「C-LTS」を使用した冷蔵冷凍設備を受注した他、乳業工場向け冷却設備などを受注いたしました。

また、製品開発面では、「インバーター駆動NH₃半密閉圧縮機」を搭載した「C-LTS」をシリーズ化するとともに、省エネ性の向上、さらなるコストダウンに努めてまいりました。

しかしながら、民間設備投資抑制の影響を受け、前期末の受注残が少なかったことに加え、当上半期の受注が大幅に減少したこと、受注済み物件の下半期へのずれ込みがあり、当上半期におけるエンジニアリング事業の業績は、売上高3,064百万円（前年同期比27.6%減）、営業損失623百万円（前年同期は258百万円の損失）となりました。

FOCUS!

エンジニアリング事業部門



排熱回収
ヒートポンプシステム

「Mr.エコ ヒート」

CO₂排出削減！ 未来に残そう素晴らしい地球環境

「Mr. エコ ヒート」は、高温排熱回収ヒートポンプシステム「Mr. エコ スチーム」の姉妹機です。従来機の「Mr. エコ スチーム」は使用する排水温度領域を55℃～85℃に設定していますが、数多くのお客様から「もう少し低い温度の排水があり再利用できないか」とのご要望に応え誕生したのが「Mr. エコ ヒート」です。

特長は、低温排熱への対応力を特に強化した温水供給特化型で、対応できる排温水を30℃～50℃に設定し、従来の「Mr. エコ スチーム」排温水領域より25℃も低温の排水で運転できるところにあります。また、供給できる温水の温度は75℃～95℃となっています。

当社では、「Mr. エコ スチーム」を組み込んだシステムを各種工場に提案をしておりましたが、排水温度の範囲を広げたことで、今後ますます他業種での採用が見込まれています。



「Mr. エコ ヒート」はヒートポンプシステムを採用しています。ヒートポンプとは文字通り「熱をくみ上げるポンプ」のことで熱をかき集め、熱エネルギーに変換するシステムです。ヒーター、ボイラーでは消費したエネルギー以上のエネルギーは得られませんが、「Mr. エコ ヒート」では消費し

東洋製作所だから
もっとエコ。



たエネルギーの約4倍のエネルギーを得ることができます。従って「Mr. エコ ヒート」はCO₂排出量を大幅に削減可能とした地球環境に優しいエコ製品です。

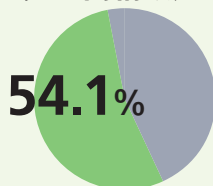


機器事業部門

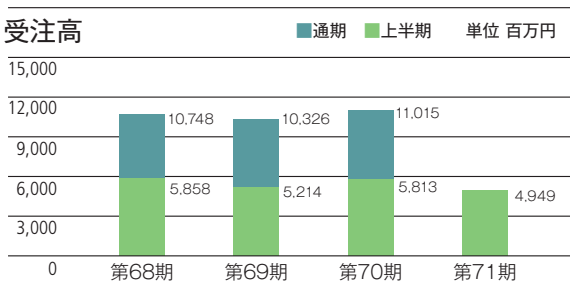
機器事業では、主にビルおよび工場向けに、空調機器や冷媒機器類の製造販売を手掛けています。さらに据付試運転はもちろんのこと、改修や保守まで、お客様にとって快適な環境を生み出し、維持するために必要なサービスをワンストップで提供。全国に展開している販売・サービス網は、その幅広い品揃えと高度な技術力によって、厚い信頼をいただいています。

売上高構成比率

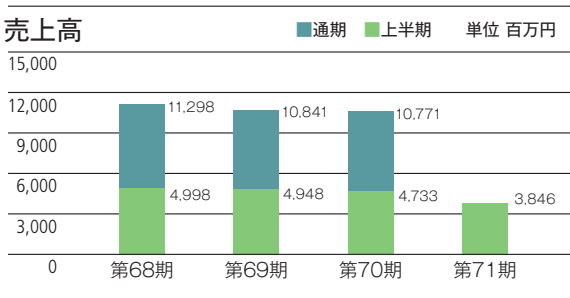
売上高
3,846百万円



受注高



売上高



上半期の 事業概況

当上半期における空調機器業界は、昨年秋以降の金融危機の影響を受け、公共事業の抑制や民間設備投資の低迷により需要減少にいつそう拍車がかかり、市場規模が一段と縮小するなど業界各社における受注獲得競争は引き続き厳しい状況が続きました。

このような状況の下においても、地球温暖化防止対策や、省エネ関連製品に対する各企業の関心度は年々高まっております。当事業はこの機会を絶好のチャンスと捉え、優れた環境保全効果を提供する「ダイレクトX」ならびに「新セーブ王」を中心に積極的な拡販に注力してまいりました。

社内体制面では、当事業の強みである生産から保守整備までの「生産」・「販売」・「サービス」による一貫体制をさらに推し進めました。また、お客様に納入した機器が常に良好な状態でお役に立てるようきめ細かな営業活動を実施するとともに、経営資源の効率的な投資で、受注拡大、利益創出にも積極的に取り組みました。

しかしながら、顧客の設備投資抑制や機器延命の流れに対する回復の動きは鈍く、当上半期における機器事業の業績は、売上高3,846百万円（前年同期比18.7%減）、営業損失71百万円（前年同期は191百万円の利益）となりました。

しかしながら、顧客の設備投資抑制や機器延命の流れに対する回復の動きは鈍く、当上半期における機器事業の業績は、売上高3,846百万円（前年同期比18.7%減）、営業損失71百万円（前年同期は191百万円の利益）となりました。

FOCUS!

機器事業部門



全熱交換器を
搭載しない新シリーズ

「ダイレクトX」

直膨空調市場のトップシェアを目指す ヒートポンプ式空調機 「ダイレクトX」

この度、全熱交換器内蔵一体型直膨エアハンドリングユニット「ダイレクトXシリーズ」に新たに全熱交換器を搭載しない新シリーズが誕生し販売を開始いたしました。

特長は、直接外気を熱源に使用し従来機にある全熱交換器での熱回収量分を高効率DCインバーターコンプレッサーで補うことにより省スペース化を実現いたしました。

また、従来機同様に屋内設置、屋外設置どちらにも対応可能で、ブラシレスDCモータ搭載ECファン、オートロールフィルタ、蒸気加湿器などの豊富なオプションとの組み合わせにより、様々な用途への柔軟な対応を実現いたしました。今回のラインアップの追加に伴い、シリーズの再編を図り、さらなる直膨空調機市場の拡大に向け邁進してまいります。



全熱交換器を搭載しない新シリーズの「ダイレクトX」は省電力・省スペース、低環境負荷に優れた製品で、1台で新鮮な外気や室内空気を効率的に冷却、加熱、加湿、洗浄を行う直膨エアハンドリングユニット

東洋製作所だから
もっとエコ。



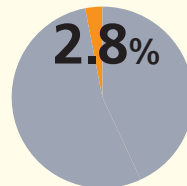
です。全熱交換器とヒートポンプ式による2段階熱回収により、さらに高い熱交換効率を実現しました。処理風量ごとにラインアップを豊富に揃え、大規模施設はもちろん、中規模施設にも最適です。

その他事業部門

その他事業では、人材派遣、損害保険代理店業務および福利・厚生サービスなどの業務を行っています。当上半期の業績は、売上高199百万円（前年同期比3.3%減）、営業利益4百万円（前年同期は5百万円の利益）となりました。

売上高
199百万円

売上高構成比率



（注）部門別事業の概況に記載している全社売上高には、内部取引303百万円が含まれており、連結損益計算書の売上高とは一致していません。



NEWS!

01

FOOMA JAPAN 2009 国際食品工業展

本年6月9日（火）から6月12日（金）、東京ビッグサイトにおいて社団法人日本食品機械工業会主催による「FOOMA JAPAN 2009 国際食品工業展」が開催されました。当社は、C-LTS、Mr. エコヒートの実機を展示いたしました。当社ブース来場者数は1,169名と、当展示会では初めて1,000名を突破し、多くの来場者の関心を集めました。



02

エネルギーソリューション &蓄熱フェア'09

本年7月29日（水）から7月31日（金）、東京ビッグサイトにおいて「エネルギーソリューション &蓄熱フェア'09」が開催されました。当社は「CO2排出削減！未来に残そう素晴らしい地球環境」を出展コンセプトに、ヒートポンプ式空調機ダイレクトXの実機を展示いたしました。当社ブースの来場者数は昨年度を大幅に上回り、来場者の方にお渡しする記念品を急遽追加しなければならぬほどご好評いただきました。



03

信頼の食品! 冷凍食品

本年10月5日（月）から10月9日（金）、農林水産省「消費者の部屋」において日本冷凍食品協会主催特別展示「信頼の食品！冷凍食品」が開催されました。冷凍食品メーカーの展示が並ぶ中、当社はパネル、パンフレットなどを展示し、説明員がご来場の一般消費者の方に食品凍結過程や冷凍原理をご説明いたしました。



東洋製作所の 技術で楽しむ

Vol.03



真夏の雪に大喜び！ オーシャンパークのパンダ

香港のレジャースポット「オーシャンパーク」に動物飼育用人工造雪設備を導入いたしました。オーシャンパークは、敷地面積87万平方メートルに遊園地、水族館、動物園を併設した今年30年を迎える香港の人気観光スポットです。

この施設では、2007年7月に香港の祖国復帰10周年を記念して、中国中央政府から香港に贈られたパンダを飼育しています。そのパンダが生活するパンダ舎は従来、2頭のパンダを二つ

のブロックにわけて飼育していました。

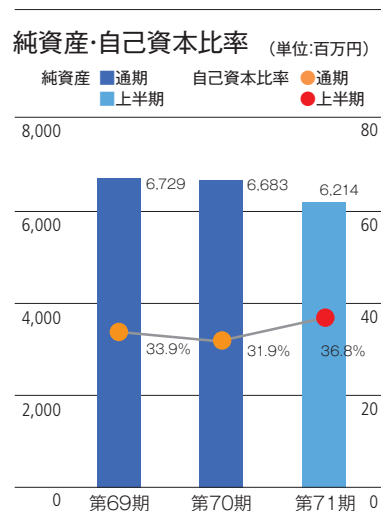
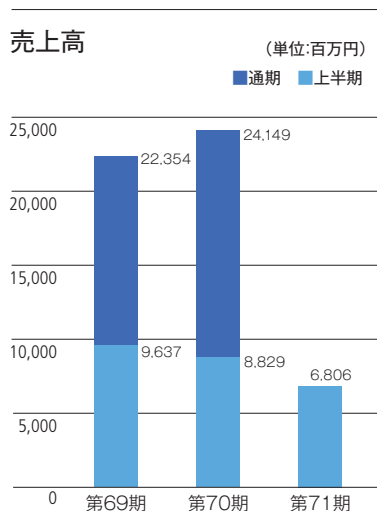
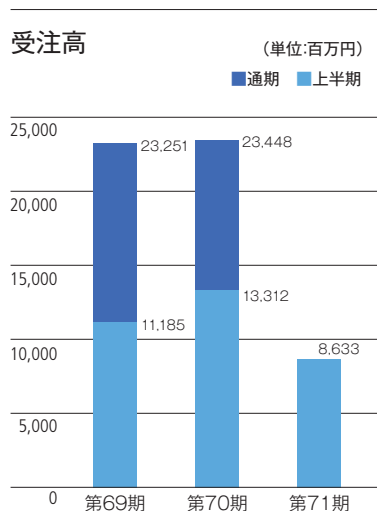
今回、4頭のパンダを飼育することになり、パンダ舎全体のリニューアルが行われました。岩場、砂場、水辺などのエリアの中央に、雪のエリアを新設し、当社の動物飼育用人工造雪設備が設置されました。パンダは山奥に生息しているため、元来暑さが苦手ですが、オーシャンパークのパンダは真夏でも当社の人工雪とたわむれ、快適に過ごしています。



連結財務諸表（要旨）

科目	第71期第2四半期 平成21年9月30日現在	第70期 平成21年3月31日現在
資産の部		
流動資産	13,669	17,818
固定資産	3,185	3,117
資産合計	16,855	20,936
負債の部		
流動負債	7,230	10,842
固定負債	3,410	3,410
負債合計	10,640	14,252
純資産の部		
株主資本	5,989	6,581
資本金	2,334	2,334
資本剰余金	1,470	1,470
利益剰余金	2,187	2,779
自己株式	△2	△2
評価・換算差額等	217	92
少数株主持分	7	9
純資産合計	6,214	6,683
負債及び純資産合計	16,855	20,936

科目	第71期第2四半期(累計) 平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで	第70期第2四半期(累計) 平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで
売上高	6,806	8,829
売上原価	5,851	7,203
売上総利益	955	1,626
販売費及び一般管理費	1,645	1,688
営業損失(△)	△690	△61
営業外収益	27	53
営業外費用	44	47
経常損失(△)	△707	△55
特別利益	67	—
税金等調整前純損失(△)	△639	△55
法人税、住民税及び事業税	19	16
法人税等調整額	△176	△47
少数株主損失(△)	△2	△2
純損失(△)	△479	△22



単体財務諸表（要旨）

貸借対照表		(単位:百万円)	
科目	第71期第2四半期 平成21年9月30日現在	第70期 平成21年3月31日現在	
資産の部			
流動資産	13,354	17,579	
固定資産	3,307	3,212	
資産合計	16,662	20,792	
負債の部			
流動負債	7,067	10,737	
固定負債	3,410	3,410	
負債合計	10,477	14,148	
純資産の部			
株主資本	5,947	6,522	
資本金	2,334	2,334	
資本剰余金	1,470	1,470	
利益剰余金	2,145	2,720	
自己株式	△2	△2	
評価・換算差額等	237	122	
純資産合計	6,184	6,644	
負債及び純資産合計	16,662	20,792	

損益計算書		(単位:百万円)	
科目	第71期第2四半期(累計) 平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで	第70期第2四半期(累計) 平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで	
売上高	6,589	8,693	
売上原価	5,743	7,241	
売上総利益	845	1,451	
販売費及び一般管理費	1,525	1,497	
営業損失(△)	△679	△46	
営業外収益	30	73	
営業外費用	43	46	
経常損失(△)	△692	△19	
特別利益	67	—	
税引前純損失(△)	△625	△19	
法人税、住民税及び事業税	16	13	
法人税等調整額	△178	△49	
純利益又は純損失(△)	△463	16	

会社の概要

会社概要		平成21年9月30日現在
社名	株式会社東洋製作所	
	TOYO ENGINEERING WORKS. LTD.	
設立	昭和27年2月16日	
資本金	23億34百万円	
本社所在地	東京都品川区東品川四丁目11番34号	
従業員数	754名(連結)	
上場証券取引所	東京証券取引所市場第2部	
証券コード	6443	
会計監査人	新日本有限責任監査法人	
関連会社	TOYO CR SDN. BHD.、株式会社トーマス、 東洋エキスパート株式会社、 東洋空調工程股份有限公司	

経営体制

代表取締役社長		服部 豊	平成21年9月30日現在
常務取締役 常務執行役員	永塚 史人	管理本部長および監査室管掌	
取締役	有原 正彦	三菱重工業株式会社 執行役員冷熱事業本部長	
取締役	三田勇太郎	株式会社ニチレイ 取締役常務執行役員	
取締役 執行役員	山本 泰嗣	機器・大形冷機サービスカンパニー長兼サービス事業本部長	
取締役 執行役員	吉井 一	エンジニアリングカンパニー長	
取締役 執行役員	久良知 健	機器・大形冷機サービスカンパニー 副カンパニー長兼機器事業本部長兼大和工場長	
監査役	小金丸俊美	常勤	
監査役	中本 興伸	三菱重工業株式会社 監査役	
監査役	小口 正範	三菱重工業株式会社 資金部長	
※上記以外、取締役を兼任しない執行役員は次のとおりです。			
執行役員	赤間 正伸	エンジニアリングカンパニー 副カンパニー長	
執行役員	小澤 進	関西支社長	
執行役員	二見 昌明	管理本部副本部長	
執行役員	渡辺 良介	管理本部本部長補佐	
執行役員	岩尾 良雄	エンジニアリングカンパニー 副カンパニー長	

株式の概況

株式の状況

平成21年9月30日現在

発行可能株式総数	80,000,000株
発行済株式総数	22,296,204株
株主数	2,023名

●大株主

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
三菱重工業株式会社	8,295	37.2
株式会社ニチレイ	2,465	11.1
三菱商事株式会社	1,600	7.2
新菱冷熱工業株式会社	720	3.2
東洋製作所従業員持株会	626	2.8
明治安田生命保険相互会社	350	1.6
岡崎 静 男	236	1.1
三菱UFJ信託銀行株式会社	125	0.6
堀 永 広 正	122	0.5
東京海上日動火災保険株式会社	100	0.4

(注) 発行済株式総数に対する保有株式数の割合において上位10名までの株主を表示しています。

■ 当社ホームページをご覧ください。

<http://www.h.toyo-ew.co.jp/>

東洋製作所

検索



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
同総会権利行使株主確定日	3月31日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社

(ご注意)

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL 0120-232-711（通話料無料）

上場証券取引所 東京証券取引所

公告の方法 電子公告により行う
公告掲載URL <http://www.h.toyo-ew.co.jp/>
(ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に掲載いたします。)

2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株式会社東洋製作所

〒140-8635 東京都品川区東品川四丁目11番34号
ホームページ：<http://www.h.toyo-ew.co.jp/>
TEL 03-3474-2126 FAX 03-3474-2139



この株主通信は、環境に優しい大豆油インキを使用して印刷しております。